

計算人文社会学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講学期	曜日	講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
計算人文社会学特論Ⅰ	人文学・社会科学の計 算的アプローチ入門	2	瀧川裕貴	1学期	金	3	
計算人文社会学研究演習Ⅰ	計算社会科学の基礎	2	瀧川裕貴	1学期	火	3	
計算人文社会学研究演習Ⅱ	計算社会科学の応用	2	瀧川裕貴	2学期	火	3	

科目名：計算人文社会学特論 I / Computational Humanities and Social Sciences (Advanced Lectur

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：1 学期， 単位数：2

担当教員：瀧川裕貴（准教授）

講義コード：LM15306， 科目ナンバリング：LIH-OS0611J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

人文学・社会科学の計算的アプローチ入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Computational Humanities and Social Sciences

3. 授業の目的と概要：

近年、人文学や社会科学において、ビッグデータや計算的手法を用いた研究が発展してきている。この授業では、人文学や社会科学のトピックに計算的アプローチを応用する計算人文社会学に関して、方法論の基本、背景となる理論、実際の研究例を紹介することで、計算人文社会学という新しい学問について理解を深めることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In this course, students will understand the basics and theories of computational humanities and social sciences base on actual cases of studies in this field.

5. 学習の到達目標：

- 1) 計算人文社会学で用いられる方法論や理論の基本的内容や特徴を理解できるようになる。
- 2) 計算人文社会学や計算的手法の用いられた人文・社会科学の論文を読解し正しく理解できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

This course aims to improve the students' ability to understand the methods and theories of computational social sciences.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業では、M.サルガニックの『ビットバイビット』(M. Salganik, 2017, Bit by Bit, Princeton University Press. 2019 年 4 月に有斐閣から翻訳が刊行予定) を教科書として用いて、ビッグデータ分析、サーベイ調査、デジタル実験の 3 つの方法を中心に、計算人文社会学の理論と方法について講義形式で進めていく。

スケジュールは、以下の予定である（ただし授業の進度や受講生の関心に応じて適宜変更する可能性がある）。

1. イントロダクション
2. 計算人文社会学とはなにか
3. ビッグデータの特徴、その長所と短所
4. ビッグデータを用いた研究事例 1
5. ビッグデータを用いた研究事例 2
6. ビッグデータ分析についてのまとめ
7. サーベイ調査の歴史と新展開
8. デジタル時代の新しいサーベイ調査法事例 1
9. デジタル時代の新しいサーベイ調査法事例 2
10. デジタルサーベイ調査法についてのまとめ
11. 実験研究の基本的論理とデジタル時代における発展
12. デジタル実験の研究事例 1
13. デジタル実験の研究事例 2
14. デジタル時代の実験法についてのまとめ
15. 全体のまとめ

8. 成績評価方法：

出席・授業での発言など (50%)、期末レポート (50%)

9. 教科書および参考書：

M.サルガニック, 2019 『ビット・バイ・ビット：デジタル社会調査入門』有斐閣.

10. 授業時間外学習：

事前に教科書の該当箇所を読み、授業での質問や発言に備える。また、授業後は理解を深めるために教科書の復習をすることが望ましい。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：計算人文社会学研究演習 I / Computational Humanities and Social Sciences (Advanced Semina

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：瀧川裕貴（准教授）

講義コード：LM12308， 科目ナンバリング：LIH-OS0612J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

計算社会科学の基礎

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Computational Social Science

3. 授業の目的と概要：

この授業では、パトリシア・ウォレス『インターネットの心理学（新版）』を輪読し、計算社会科学の基礎にある人間行動の理論について理解を深めることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course aims to deepen the understanding of a theory of human behavior that is a basis for computational social science by reading the textbook, "The Psychology of the Internet, Second Edition" written by Patricia Wallace.

5. 学習の到達目標：

計算社会科学の基礎にある人間行動の理論について理解を深める

6. Learning Goals (学修の到達目標)

This course aims to deepen the understanding of a theory of human behavior that is a basis for computational social science.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業では担当者が 2 つの部分からなる資料を作成し、発表する。

前半部分では、担当章の内容を要約、紹介する。

後半部分では、各章で扱われているテーマについて、文献の内容を踏まえつつ、独自の考察やコメント、研究計画の提案などを行う。

1. イントロダクション
2. 心理学から見るインターネット
3. オンラインにおける人格・印象形成
4. インターネットの集団力学
5. オンライン攻撃の心理学
6. ネットにおける好意と恋愛
7. ネットにおける利他主義
8. オンラインゲーム行動の心理学
9. 子供の発達とインターネット
10. ネットにおけるジェンダー問題とセクシュアリティ
11. オンラインプライバシーと監視の心理学
12. 時間つぶしとしてのインターネット
13. インターネットの心理学
14. 総合討論 1
15. 総合討論 2

8. 成績評価方法：

授業での発表（50%）、出席・ディスカッションへの参加（50%）

9. 教科書および参考書：

パトリシア・ウォレス『インターネットの心理学（新版）』（2018, NTT 出版）

10. 授業時間外学習：

授業までに発表者だけでなく、受講者の全員が文献を読み、あらかじめ質問やコメントを用意しておくことが求められる。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：計算人文社会学研究演習Ⅱ／ Computational Humanities and Social Sciences(Advanced Semina

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

semester：2学期， 単位数：2

担当教員：瀧川裕貴（准教授）

講義コード：LM22309， 科目ナンバリング：LIH-OS0613J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

計算社会科学の応用

2. Course Title (授業題目)：

Advanced Computational Social Science

3. 授業の目的と概要：

この授業では、計算社会科学におけるデータ収集、データ処理、分析、結果の報告までの過程を自ら行うことで、計算社会科学の研究の進め方を身につけることを目的とする。前半では、Pythonを用いて、計算社会科学の推敲に必要なプログラミングの知識と技術を身につける。後半では、研究計画を提案し、計画に沿ったデータ収集や分析の結果を報告してもらう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course aims to develop students' ability to do computational social science research. Students conduct data collection, data processing, and data analysis and report their results. In the first half, students will learn about Python programming for computational social science. In the last half, Students will propose their research plan, conduct data collection and analysis and report their results.

5. 学習の到達目標：

計算社会科学的研究の進め方を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will develop students' ability to do computational social science research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. Python プログラミング入門(1)
3. Python プログラミング入門(2)
4. pandas 入門
5. データ収集：API
6. データ収集：スクレイピング
7. 自然言語処理入門(1)
8. 自然言語処理入門(2)
9. データ収集・分析計画の発表
10. データ収集進捗報告(1)
11. データ収集進捗報告(2)
12. 分析進捗報告(1)
13. 分析進捗報告(2)
14. 分析結果発表
15. 総評

8. 成績評価方法：

授業での発表(50%)、出席・ディスカッションへの参加(50%)

9. 教科書および参考書：

自前の資料を配付する。

10. 授業時間外学習：

Python プログラミングについては、授業時間外にも積極的に学習することが強く奨励される。研究計画の準備やデータ収集・分析については、授業時間外に作業することが必要となる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practical business

12. その他：

